日経高校生SDGsコンテスト

新しいグローバル時代を拓く

拓殖大学によるSDGsへの挑戦

拓殖大学　国際学部長
徳永達己

拓殖大学
Takushoku University

1 .SDGsを正しく理解する

5分ですっきり分かるSDG s

No one will be left behind

誰一人取り残さない

①TICAD 8 が 8 月末にチュニジアで開催

- 2050年には人口が25億人になる（現在14億人）。

  世界の人口の1/4を占める
- 日本はアフリカに対し300億ドル（4.1兆円）の支援を表明
- 鉱物資源も豊富、若い人が多い最後のフロンティア
- 現地発のスタートアップ企業も増えている
- リープフロッグ
- リバースイノベーション

TICAD Tokyo International Conference on African Development
Tunisia 2022

②現在はどんな時代か

- 頻発する紛争、感染症の拡大、気候変動による災害の多発化
- 脱炭素、Society5.0、デジタル化（DX）
- 人口減少、少子高齢化、地方創生

③SDGsとは何か、5つの特徴

- 目標は多様性と包摂性のある社会の実現
- 成長の限界、現代人の行動規範（Standard，Movement)
- 17の目標、169のターゲットの狙い、様々な問題を同時に解決する、誰にでも達成に貢献できる
- 未来のあるべき姿を描く”Back-casting”の思考
- 年間12兆ドルの経済価値を生むとされる経済効果

⑤私たちに今求められているアクション

- 問題（社会課題）を自分事で考える
- 自分ができることから取り組む
- 実施する活動に「持続可能性」の視点を組み込む

⑥大学に期待されるSDGｓの役割

- 技術・社会システムの開発（研究）
- 担い手の人材育成（教育）
- 環境保全、地域活性化（社会貢献・活動）

２．拓殖大学によるＳＤＧｓへの挑戦

拓殖大学
Takushoku University

拓殖大学

起源：

1900年に創立

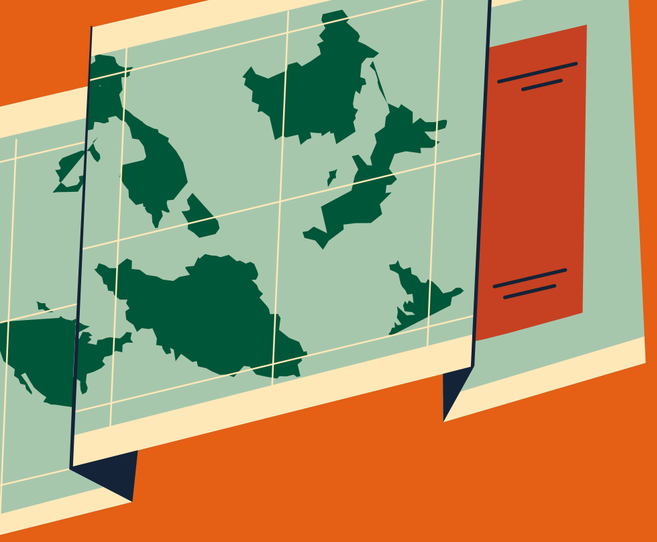
使命：

国際社会に貢献する
人材の育成

人種の色と地の境
我が立つ前に差別なし

1920年に制定された校歌の一節

1 345678910
Today is
October
2015
KA



教育ルネサンス2030で定められた
拓殖大学が育成を目指す人材

拓殖人材

教育ルネサンス2030で定められた
拓殖大学が育成を目指す人材

拓殖人材

国際性

専門性

人間性

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

拓殖大学工学部のSDGs関連の主な研究

①風車用切欠き翼の空力特性に関する研究（風力発電の風車の効率化）

機械工学科／平野孝典

②Touchless Information Provision and Facial Expression Training using Kinect（人間の動作や表情を使って、ボタンなどを非接触で操作する）

電子システム工学科／林誠治

③センサネットワークによる圃場のモニタリングシステムに関する研究

情報工学／蓑原隆・高橋丈博・前山利幸（電子システム工学・竹下正哲（国際学部）

④高齢者や軽度認知障害有病者の特性に配慮した高速道路逆走対策の取組み

デザイン学科／永見豊

学生チャレンジ

学生チャレンジとは？

- 2010年より開始
- SDGsに関する活動、社会貢献、国際交流、大学の活性化など、学生の取り組みを大学が応援し、サポートする制度
- これまで６８企画を支援

取り組み事例

国際学部　竹下ゼミナール

耕作放棄地の復活を目指す「ハタチの畑」プロジェクト

学生チャレンジ企画　採択企画
FWR（Food Waste Reduction）

地域の食品ロスをなくそう

3. 国際学部　徳永研究室の研究と活動

拓殖大学
Takushoku University

テーマ

地方創生（まちづくり）の実践を通じて国際開発について考える

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

目標11：住み続けられるまちづくりを

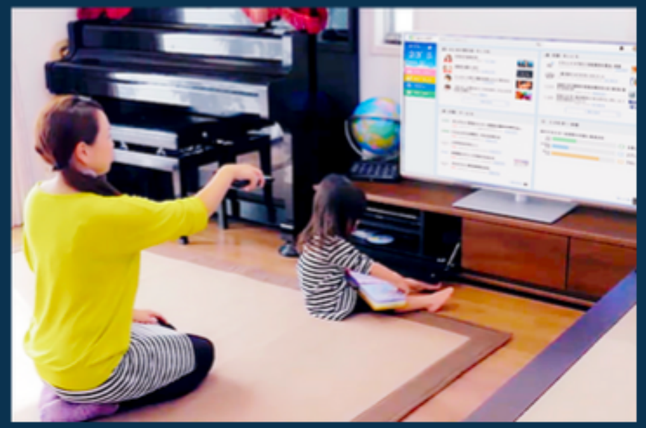
- 安全で、災害に強いまちや人々の住む場所をつくる
- 災害などがあっても早く回復持続可能なまちづくり
- 大気汚染を防ぎ、廃棄物を管理して都市の環境を改善する

都市DX／スーパーシティに期待されるコミュニティ参加型の取り組み

街並み・施設

神奈川県藤沢市にうまれた『Fujisawaサスティナブル・スマートタウン（Fujisawa SST）』は、先進的な取り組みを進めるパートナー企業（パナソニック）と藤沢市の官民一体の共同プロジェクトである。

Fujisawa SST協議会提供
公式サイト　https://fujisawasst.com/JP/



くらしを支えるプラットフォーム

都市OSをいかに機能させるか
カギを握るコミュニティ参加の視点

街に関わるみんなが街を育てる“まち親”としてアイデアを自由に出し、街を成長させる。スマートタウンとして、新しい街のあり方とくらし方を追求するとともに、人と人、人と街の関係を膨らませていく。

FSST文化祭

就労体験

防災イベント

コミュニティケア

徳永研究室のActions

①地方創生（まちづくり）の経験を通じ、
開発に関する理論と実践的な政策提言について考える。

②ゼミ生は、国際開発に関する実務能力の向上を目的として、
国内における地方創生のフィールドワークを通じた実践経験を積む。

富士川町

- ＜概要＞
- 人口：14, 361人（2022年9月1日現在）
- 八王子より車90分、公共交通（鉄道、バス利用）120分
- 富士川（一級河川）の起点
- 富士川舟運によって栄えた町
- 特産品：ゆず/西洋なし/平林トマト/ワイン/木工品（臼）/しそジュース/しいたけ/みみ料理他
- 近年は少子高齢化の影響を受け、人口減少が著しい
- 2017年に拓大と包括連携協定を締結、学生によるまちづくり活動が行われている。

プロジェクトYターン！

三つの行動プラン

1 大学生・留学生
週末ホームステイ

学生たちの週末ホームステイ交流をきっかけに、手作り感覚で「まちづくりDIY」に取り組んでもらう狙い

2 デザイン
まちづくりDIY

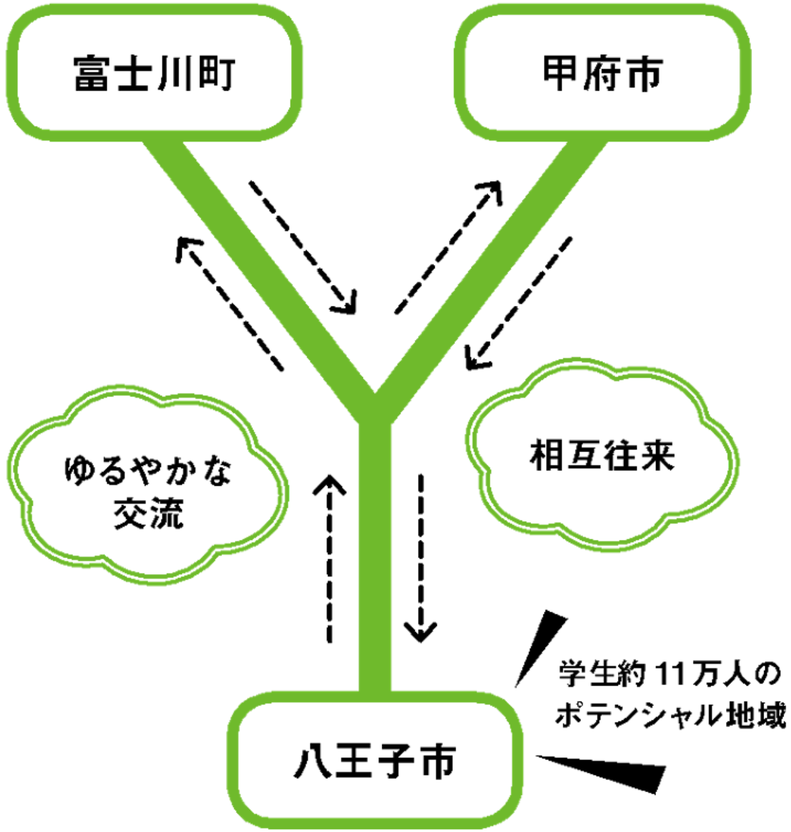
空き家や廃校を利用した学生の合宿計画を起点に、地域デザインや宣伝PR提案などの「まちづくりDIY」を実践して地域貢献を図る

3 地域おこし
イベント企画

地域の特性を活(い)かした学生参加によるイベント企画を仕掛ける。外部からのアプローチにより地域住民の活動を促すきっかけづくりの挑戦

プロジェクトYターン！の戦略

山梨の「結（ゆい）」と「ゆるやか」に結び付ける活動からプロジェクト名を「Yターン」と命名した



富士川町が直面する地域課題と解決に向けた活動

1. 少ない町内バス

2. 廃校と空き家

3. 町の知名度が低い

→

商店街活性化とバス運行計画策定
「道の駅富士川」との共同企画

廃校利用と地元教育機関との連携
増穂登窯の芸術を通じた活性化

「郷土料理ブランディング」
ふるさと納税の開発

富士川町十谷地区の郷土料理「みみ」の活用

「ほうとう」に似た麺料理

農具の箕(み)を模して作った麺

箕で福をすくいとる縁起物。

みみストローネなど学生が新たな料理を考案。

主な活動経歴

2015年～2019年

2015年
大学生観光
まちづくりコンテスト

2017年9月
富士川町と拓殖大学
包括連携&「新しい
みみレシピ」を振舞
う試食会を開催

2018年11月
富士川町祭り参加

2018年12月
ダイヤモンド富士
2018

2019年
みみ料理・
みみチップス販売

2019年12月
ダイヤモンド富士
2019

ダイヤモンド富士2019

～まちと福をすくうみみ～

拓殖大学
×
山梨県立大学

2019/12/29
AM5:00～ sun

富士川町高下
ダイヤモンド富士スポット

このたび、山梨県富士川町でまちづくり活動を行っている私たち拓殖大学国際学部徳永研究室は、山梨県立大学国際政策学部杉山研究室と協力し、昨年に引き続きダイヤモンド富士を拝みに高下地区に来町される訪問客に対し、郷土料理「みみ」を振舞う催しを行うことにしました。今回の企画の経緯、概要等については以下の通りです。

【経緯】
1. 背景
山梨県富士川町の通称「日出づる里」は日本国内で唯一ダイヤモンド富士を大晦日から元旦にかけての明け方に見ることができる地域です。そこで、町民、町役場と協力しながら、現在我々が研究テーマとしている郷土料理「みみ」の提供と併せて富士川町における地域ブランディング化を図ります。

2. 企画概要
ダイヤモンド富士の景色は年に一回程度しか見ることができず、非常に縁起の良い景色として国内外の写真家や登山家にも愛されています。日本中にスポットがあるものの年末年始にかけては、富士川町の日出づる里からしか見ることはできません。このため、例年多くの観光客がダイヤモンド富士を見るために高下地区を訪れます。
そこで、ダイヤモンド富士を見るため、高下地区を訪れる観光客の方に無料で「みみ」を提供いたします。今回、この企画を行うことで、この地域特有の唯一無二の地域ブランディングが図れるのではないかと考えました。

お問い合わせ：拓殖大学国際学部 徳永研究室
TEL 042-665-6735

郷土料理”みみ”の知名度もup

主な活動内容

2020年～現在

①おうち体験型　返礼品の開発

②ゆずを使用した商品の開発

③みみだけじゃない！

　富士川町ガイドブック

新しく開発したゆずケーキ

③みみだけじゃない！富士川町ガイドブック

よってけし

富士川町ガイドブック

～ふるさと納税を巡る～

期待される学生まちづくり活動の成果

学生のメリット

地方の現状が学べる
伝統料理への関心が高まる
まちづくりの経験

富士川町のメリット

みみの認知度アップ　経済効果による発展
地域ブランドの確立　食文化の継承
新たな名産品の誕生
他名産品の認知度アップ

大学のメリット

ネットワーク強化
知名度PR
教育ルネサンス

まちづくり活動に参加した学生の意識調査

①まちづくり活動に興味・関心がある

・学生全体*1(53%)

・ゼミ生等経験者*2(80.6%)

②卒業後もまちづくり活動に参加したいか*2

・ぜひ／できれば参加したい（80.7%）

③まちづくり活動で身についたもの(複数回答可)*2

・コミュニケーション力(80.6%)

・社会への貢献度(62.5%)

・積極性(46.6%)

*1 n=316人, 2019年　　*2 n=88人, 2021年

学生参加によるまちづくり活動の３つの要点

- 学生はまちづくりのまさに担い手。学生の視点から地域の課題解決に取り組むことは重要。
- まちづくりを成功させるための3つの要素 よそ者、若者、ばか者→新しい視点、活力、行動力が必要！（まちに化学反応を起こす）
- 人は“まち”を作る。“まちづくり”の活動は人を育てる。若い人材の育成に有益。

4.高校生の皆さんによる SDGsへの挑戦

拓殖大学
Takushoku University

SDGsに向けた皆さんのBack-casting

高校生世代が成長する時間軸は、
SDGsの目標達成に向けた流れとも連動している。

現高校生世代の成長の流れ	小学校ー中学校 2015-2020	高校ー大学 2021-2025	大学ー社会人 2026-2030
国際社会の動向、技術開発、環境の影響	グローバル化の進展 再生エネルギーの開発 地球温暖化の加速	治安悪化、紛争の頻発 DXの開発・普及 激甚自然災害の多発	多文化共生社会の実現 脱炭素の実現 生物多様性の環境保全
新型コロナの影響	Normal	With COVID-19	Post COVID-19
SDGsの取り組み	前期（初動期間）	中期（普及期間）	後期（目標達成）

高校生に向けたまちづくり活動のアドバイス

1. 高校生が出来るアクションを展開する。

2. 高校での学びを応用する。

3. 生徒の視点から脱炭素、DXを理解する。

4. 常に目的と目標を意識する。適切なフィードバック。

5. SDGsを活動の指針とする。

高校生に向けたまちづくり活動のアドバイス

6.友人間のコミュニュケーションは活動を円滑させるカギ。

7.多世代の方々や多様な関係者（ステークホルダー）とネットワークでつながる。かけ合わせ（マイナスの数字もプラスに）

8.地域の資源（リソース）を掘り起こせ！答えは現場にある。

9.何より自分自身が楽しんで参加しよう。

質問：プロジェクトを成功させるには？

質問：プロジェクトを成功させるには？

プロジェクトを絶対に失敗しない方法が唯一ある

それは何もしないこと。
しかし、それでは世の中は何も変わらない。

ご清聴ありがとうございました

SDGsの取り組み紹介ページ（拓殖大学HP）

進む拓大、世界を拓く

拓殖大学
Takushoku University

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

拓殖大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

「真の国際人」を育成してきた大学として、
SDGsを活かしながら、改革を進めます。